



別府市の別府翔青高は本年度、仲間づくりやコミュニケーション能力を高めるための活動「笑晴タイム」に取り組んでいます。

① 翔青高は県教委が導入したあるプログラムの実践モデル校です。プログラムの名称とその内容は？

「人間関係づくりプログラム」。自尊感情を高めるための構成的グループエンカウンター（心と心の触れ合い）や人と関わる力を育むソーシャルスキルトレーニングを集中的にグループで行う活動。

② 「笑晴タイム」ではどんな活動が行われていますか？

週1回終礼時の5分間を使い、設定されたテーマについて語り合うなどし、自己開示や他者理解の経験を積んでいる。

③ この活動について生徒はどう感じていますか？

「新型コロナウイルスによる休校でクラスメートとの交流が少ないので、友達づくりに役立つ。相手の話をしっかり聞くことが授業でもできている」

④ 活動の効果について、担当の高橋教諭は何と話していますか？

「最も大切なのは聞く姿勢。友達に受け入れられる経験によってクラスに心の居場所ができ、安心感につながる」

5分間 設定テーマ語って聞いて

別府 翔青高 笑晴タイム

設定されたテーマで語り合う生徒は別府市の別府翔青高



【別府】別府市の別府翔青高（793人）は本年度、仲間づくりやコミュニケーション能力を高めるための活動「笑晴タイム」に取り組んでいる。週1回終礼時の5分間を使い、設定されたテーマについて語り合うなどし、自己開示や他者理解の経験を積んでいる。

「友達づくりに役立って」

県内ではじめの認知件数や不登校出現率が増加する中、児童・生徒のコミュニケーション能力や人間関係力の低下が課題となっている。学校や学級への不応答を未然に防止するため、県教委は昨年度、一人人間関係づくりプログラムを導入。同校は本年度の実践モデル校（4高校）に指定され、6月から毎週金曜日に「笑晴タイム」を始めた。

19日の活動では「私のリフレッシュ方法」をテーマに、生徒がペアとなって話し合った。「まず「相手の話に関心を持つ」「などのルールを意識しながら、質問を返すなどしてコミュニケーションを図った。最後はクラスで話した内容を共有し、用紙に感想を書いた。」

人間関係づくりプログラム

自尊感情を高めるための構成的グループエンカウンター（心と心の触れ合い）や人と関わる力を育むソーシャルスキルトレーニングを集中的にグループで行う活動。来年度から県内全ての公立小中高校で実施する。

「最も大切なのは聞く姿勢。友達に受け入れられる経験によってクラスに心の居場所ができ、安心感につながる」と話している。（佐藤弘子）